

学習指導案例（教科別の指導）

知的障害学級 1年1組 算数科 学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日〇:〇〇~〇:〇〇

場所 〇〇学級教室

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1) 文部科学省）

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態 [1年1組・3名]

本学級は、1年生の3名で構成されている。集中できる時間は限られているが、興味のある学習には基本的に座って参加できる。A児はダウン症で、発語があり、友達と関わることが好きである。B児は、明確な発語はないが、担任の二語文程度の簡単な指示は理解できている。C児は、主たる障害が知的障害でASDも有しており、少々多動な面が見られる。

算数科に関する実態としては、A児とB児は、具体物を3まで数えられるが、集合数の理解が難しい。また、感覚的に「多少（大小）」の判別ができるが、数の比較は難しい（2段階）。C児は、具体物を20までであれば、ものの数を数え間違えずに手際よく数えたり比べたりできる（3段階）。

(2) 単元観

本単元は、学習指導要領「A数と計算」の、以下の目標・内容を受けて設定している。

A数と計算 2段階 目標

ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。

A数と計算 2段階 内容

ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

〔知識及び技能〕

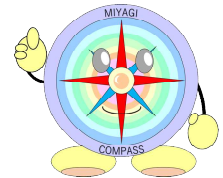
(ア)㊦ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(イ)㊦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。

本単元では、10までの数の数え方や表し方などについて学習する。児童はこれまで、5までの一対一対応の簡単な学習を行ってきた。これらの学習が、音などの見えないものを数えたり、縄跳びを跳ぶ回数（動き）を数えたりする学習につながっていく。

これらを受け、本単元では、10までの数を数える活動を通して、身の回りのものを数えたり操作したりする等、日常生活で活用しようとする態度を育てることができる単元である。



学習指導案づくりの 20の視点

- ①活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。
- ②個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。
- ③単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心、発達段階、生活経験を分かりやすく書いている。
- ④単元（題材）を通して、児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。
- ⑤学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。

(3) 指導観

指導に当たっては、実際の生活場面に即した課題として、学級での当番活動である給食の牛乳を配る場面を想定した。導入場面では、単元のゴールを最初に示し、主体的に学習に参加できるようにする。また、単位時間ごとにゴールを確認し、目的意識を常に持たせるようにしたい。数を数える活動では、実物を用いて互いの数える様子を見たり、教師が媒介しながら一緒に確認したりするなど、児童同士の学び合いを促し、数唱や集合数の理解を深めたい。また、その日の頑張りやできたことを、「数え名人カード」にシールを貼って賞賛し、児童の自信や主体的に取り組む意欲を高めたい。最後の振り返りでは、学習した内容を発表することにより、自分の取組を想起し、それに伴う気持ちを表現する力を養うことで、数量への関心につなげたい。さらに、10まで数えられるようになったことを家でもやってみようとするなど、日常生活に生かすことができるのではないかと考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) ものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。
[知識及び技能]
- (2) 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。
[思考力、判断力、表現力等]
- (3) ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
牛乳やストローの集まり、それぞれの数詞と対応した数字が分かっている。 (Aア(ア)⑥)	牛乳とストローの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に応じて考えている。 (Aア(イ)⑦)	牛乳やストローを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心を持ち、生活や学習に活用しようとしている。

(2) 単元の指導計画（7時間扱い 本時1／7）

時	主たる学習活動	評価規準			評価方法
		知・技	思・判・表	主	
1 時	・牛乳を数える（5まで） ・既習事項の振り返り（3まで）	・			行動観察
2	・牛乳とストローを数える（5まで）	・	・		行動観察 発表
3	・牛乳とストローを数える（5まで）	○	○		行動観察 発表
4	・牛乳にストローを組にして置く				
5	・牛乳とストローを数える（10まで）	○		・	行動観察 発表
6	・牛乳にストローを組にして置く				

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

⑦「育成を目指す資質・能力」が明確である。

⑧「育成を目指す資質・能力」に対する到達点が具体的である。

⑨単元（題材）の目標を達成するための、評価の計画が明確に位置付けられている。

7	・実際の給食準備の場面を利用して、牛乳にストローを組にして置く	・	○	○	行動観察 発表
---	---------------------------------	---	---	---	------------

※ ○：記録に残す評価 ・：指導に生かす評価

5 単元の個別の目標

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
A 児	5までのものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	5までの数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	5までのものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。
B 児	5までのものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	5まで数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	5までのものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。
C 児	数える対象を5ずつのまとまりで数えることができる。	5ずつの数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。	5ずつの数のまとまりに関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方の良さを感じながら、興味を持って学ぼうとする。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・5までのものの集まりと数詞を対応して数えることができる。

[知識及び技能]

(2) 本時の指導に当たって

本時の指導に当たっては、以下の点を工夫しながら進めていく。

- ・実際の生活場面に即した課題の提示
- ・導入での既習事項の確認
- ・具体物を使用した学習活動
- ・ICTの活用（学習課題の拡大提示、振り返りの映像）

- ⑪「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。
- ⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

(3) 児童の実態と個別の目標及び評価規準

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・一対一対応を覚え始め、3までの数であれば、正しく数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5個までの牛乳を数唱しながら数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に、指さしをしながら数えることを繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一対一対応をしながら、5個までの牛乳を数えている。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> ・3までのマッピングはできているが、それ以上を数えることは難しい。 ・友達と関わることでより教師との関わりを好む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が数える言葉に合わせて、指さししながら5個までの牛乳を数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛乳をかごに入れる（数える）ときは、一人で行うよう促す。 ・かごに入った牛乳を数えるときは、教師と一緒に指さしをして行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4と5を数えるときも、指がずれずに数えている。
C 児	<ul style="list-style-type: none"> ・20までのものの数を正しく数えることができる。 ・具体物が変わっても、正確に数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10を5と5のまとまりとして捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5のまとまりに気付けさせるために、かごに入った牛乳を5個ずつに分け、並列に並べるようにする。 ・解決する場面で、最初に行わせ、復習や個別の課題に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5のまとまりを作り、数詞と対応している。

⑫個別の実態は、できるところ・できそうなことに注目し、本時の指導につながる観点で具体的である。

⑬個別の目標は、どのよう
な力を身に付けさせた
いかが具体的である。

⑭個別の目標を達成するための手立てが具体的である。

(4) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問 ・指示 ◆予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
導入 10分	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 本単元の学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を見ます。 ◆静かに見ている。 ◆早くやりたくてウズウズしている。 	<p>日直に注目するよう促す。</p> <p>今まで給食の手伝いをしてくれた6年生からのメッセージ動画を使用し、本単元の課題を提示する。</p> <p>A児の学習に取り組みたい気持ちに共感し、意欲を高める。</p>	

⑮教師の動きやT・T間の役割が明確である。

	<p>3 既習事項を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3までのものを数えます。 ◆指さしに合わせて数を数える。 ◆B児は、発語はないが、指さしをして数える。 <p>4 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ぎゅうにゆうをかぞえよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日のめあてを読みます。 ◆みんなで一緒に声を出して読む。 	<p>みんなが注目できるように、課題を拡大提示する。</p> <p>指さしをする児童（B児）と数唱をする児童（A児とC児）で協力しながら数えることで、児童同士の学び合いを促す。</p> <p>クラスの人数である5人分を配る課題を提示する（児童3人、担任、支援員分）。</p> <p>みんなの声に合わせて指さしするようB児を支援する。</p>	
<p>展開 20分</p>	<p>5 牛乳を数える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4個の牛乳を数えます。 ①4の数を知る。 ②指さしで数える。 ③4個の牛乳をトレイに置く ◆C児のまねをして、数えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5個の牛乳を数えます。 ①5の数を知る。 ②指さしで数える。 ③5個の牛乳をトレイに置く ◆指さしがずれる。 	<p>最初に、C児にやって見せるよう促す。</p> <p>牛乳が置きやすいようトレイに線と10までの数字を書いておく。その際、2列に分けて線を引き、5のまとまりが意識できるようにする。また、提示する以外の数字は隠しておく。</p> <p>C児には、かごに入っている牛乳を10個数えさせる。そして、トレイ2枚にそれぞれ5個ずつ置くよう促す。その後、牛乳を数えながら机の上に取り出させ、数える練習をさせる。C児が終了後、他の児童に数える練習をさせる。</p> <p>指さしがずれた場合は、教師と一緒に確認をする。</p> <p>活動の様子をタブレット端末で撮影し、振り返りで活用できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5個の牛乳を数え、ものの集まりと数詞が対応していることが分かっている。 <p>[知・技]</p>
<p>終結</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風船の数を数えます。 ◆牛乳と同じように風船を数える。 	<p>みんなが注目できるように、課題を拡大提示する。</p> <p>「数え名人カード」にシールを貼って賞賛する。</p>	

⑩授業全体の流れが分かり、中心的な学習活動が明確である。

⑪「[育成を目指す資質・能力](#)」が身に付くために、「[主体的・対話的で深い学び](#)」の視点で指導や支援を考えている。

10分	<p>7 今日の頑張りを共有する。 ○自分や友達の頑張ったことやできたことを発表しよう。 ◆映像を見ながら、友達の頑張りを賞賛する。</p> <p>8 次の学習を知る。 ○次回は、牛乳とストローを数えます。</p> <p>9 終わりの挨拶をする。</p>	<p>ICTを活用して、友達の頑張りを互いに見合う。 自分から話せそうにならない場合は、教師のインタビュー形式で児童の思いを引き出す。 B児へは、絵カードを用いて、自分の思いを発表できるよう支援する。</p> <p>牛乳とストローの実物を見せながら説明をする。</p> <p>日直に注目するよう促す。 (給食時の牛乳を数える様子を動画に記録し、次時の導入で生かすようにする。)</p>
-----	---	--

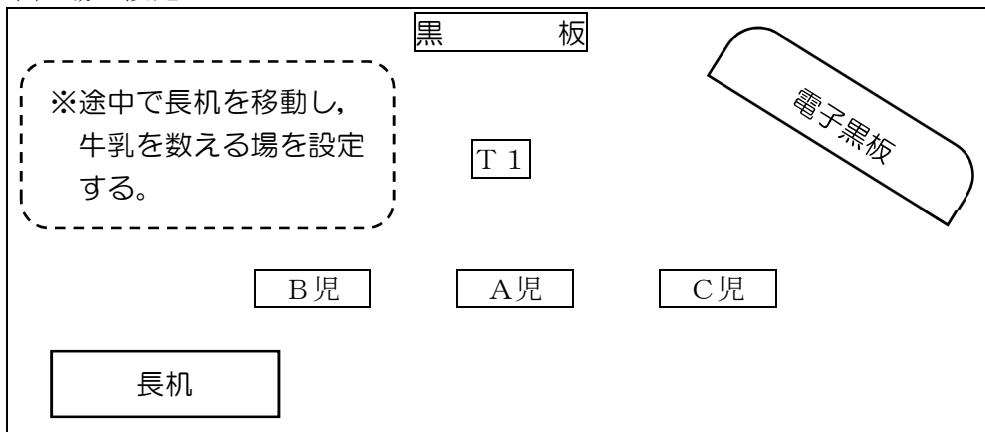
(5) 本時の評価規準

- ・5個の牛乳を数え、ものの集まりと数詞が対応していることが分かっている。(知識・技能)

(6) 準備物

- ・教師：牛乳（空）、ストロー、トレイ、数字カード、シール、電子黒板、タブレット端末
- ・児童：給食着、数え名人カード、絵カード

(7) 場の設定



⑱教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

⑲「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。

⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

⑳図や写真を用いて、イメージしやすいように示されている。